

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼらりすあんど		
○保護者評価実施期間	2025年10月14日		2025年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13(1名休職中)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による支援	言語聴覚士や理学療法士、保育士、教員などの多職種が連携し、それぞれの専門的な視点から多角的にアセスメントを行います。カンファレンスを通じて情報を共有することで、子ども一人ひとりに最適な支援計画を立案・実施している。	各専門職の配置にとどまらず、職種間の相互研修を通じたスキルの融合を図ります。最新の知見を取り入れた事例検討を重ねることで、専門職同士の相乗効果を生かした独自の支援プログラムを開発し、より質の高い療育の提供に努める。
2	保護者支援	ご家庭や学校での困りごとに対し、解決に向けた具体的なサポートを行っている。電話やLINEでの相談窓口を設け、ご家族の不安に寄り添いながらスピーディに対応し、さらに、関係機関(学校・自治体・医療等)と密に連携することで、ご利用者様を取り巻く環境を総合的に支えるようにしている。	学校や医療機関等との「顔が見える連携(訪問や合同会議)」を深め、生活圏全体で途切れのない一貫した支援体制を構築することに努める。
3	子どもの発達状態に応じた個別活動と集団活動による支援	子どもの発達状況に合わせ、コミュニケーションや身体の使用法、構音訓練などの「個別支援」と、運動遊びや創作活動を通じた「集団支援」をバランスよく実施している。ルールや社会性の習得を促すとともに、一人ひとりに最適な支援方法を職員間で常に共有し、チーム全体で成長を支える体制を整えている。	専門職(ST・PT・心理・保育・教員等)の視点を統合し、より客観的で深い分析に基づいたオーダーメイドの支援計画を立案・実施する。日々の支援の質を高めるため、研修等へ積極的に参加し、最新の知見や技術の習得に努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報公開媒体の未整備	SNSやホームページの更新頻度や、保護者がアクセスしやすい環境づくりが不十分であるため、事業所の透明性を高める情報が届ききっていないことが推測される。	SNSやホームページにおける事業所の自己評価結果や安全対策への取り組みを積極的に公開していく。 SNSを見ない保護者様にも配慮し、重要な事項は書面や事業所内掲示での案内できるようにする。
2	非常時等の対応への認知不足	避難訓練等は定期的実施しているが、その様子や計画が保護者に可視化されていないため、保護者への説明、周知の方法においては改善が必要である。た、訓練についても、全利用者が参加できていない。	訓練について、できるだけ多くのご利用者様が参加できるように設定し、実施後の子どもの様子などについて伝える機会を設ける。また、契約時に避難経路等を渡すなど災害時にスムーズに対応できるようにしていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ぼらりすあんど

公表日 2026年2月18日

利用児童数 70

回収数 47

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	47				子供がのびのびと活動できています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	47				個別でかつ親と子に各1名ずつなので手厚く感じています。	
	3 療育空間は、子どもに何をすべき場所かわかりやすい環境設定になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	46	1				
	4 療育空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	47				子供が居心地よくすごしています。	
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	45	1		1	入所して日が浅いのでまだまだ実感できていませんでこれから期待しています。	
	6 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか。	47				親・子どもに寄りそった内容だと感じました。	
	7 個別支援計画には、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	47				親・子どもに寄りそった内容だと感じました。	
	8 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	46			1	親・子どもに寄りそった内容だと感じました。	
	9 事業所の活動内容が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	44	1		2	入所して日が浅いのでよくわかっていません。	
保護者への説明等	10 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	47				丁寧にしっかり説明していただきました。	
	11 「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	46			1	丁寧にしっかり説明していただきました。	
	12 保護者が子どもの行動や特性を理解したり、子どもへの関わり方・対応について学ぶ機会が設けられていると思いますか。	46			1	小さい心配事・不安な事に丁寧に対応していただいています。活動を見守りながら色々気づきを得ることができています。	
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	47				面談の際に色々情報共有することができています。	
	14 定期的に保護者に対して、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	46			1	定期的に面談の機会があるため助かっております。子供の荒れた時期に時間をもうけていただいて対応の相談ができ助かりました。ごちらの相談等に親身になってきてくれます。	
	15 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	47				子供と一緒に育てている感覚です。同じ方向を向いてくれていると感じます。	
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対して、そのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	46			1		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	47				情報共有を大切にしていると感じます。	
	18 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	32	2		13	ホームページ等をチェックしていないのでわからなくてすみません。	
19 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	45			2			
非常時等の対応	20 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	37	1		9	しっかり説明していただきました。	
	21 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29	1		17		
	22 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	38			9		
	23 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	39			8	そういった事が一度もなかったので分かりません。しっかり説明していただきました。	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
満足度	24	子どもは安心感をもって通所していますか。	47				のびのびと活動できています。	
	25	子どもは通所を楽しみにしていますか。	47				毎週とても楽しみにしています。	
	26	事業所の支援に満足していますか。	47				いつも寄りそっていただき感謝しています。	

ご自由にお書きください（ご意見・ご要望など）

- ・月に一度の面談で園の様子を詳しく教えていただき今後の方針をわかりやすく説明してもらい大変助けていただいています。
- ・通所を楽しみに通っています。日頃の様子を相談・共有して下さり必要な事をすぐに取り入れて療育してくれるので、安心して通っています。
- ・いつも楽しいみたいで施設をみると「ぼらりすだー」と教えてくれます。子供に楽しいと思ってもらえて良かったです。
- ・いつも楽しい療育をありがとうございます。言語がもっとできるように頑張ります。
- ・まだ通所し始めて数カ月ですが、今まであまり口の動きを意識していなかった事が多かったけど本人はお風呂などでマネているので少しずつ意識し始めた。卓上の時、集中力が続かないので申し訳ないですが、その際にも色々な手段・方法で対処して下さるので感謝です。
- ・いつもありがとうございます。一番ここが楽しいと言って喜んで通っています。来月からは弟も宜しく願います。
- ・月に何回も面談して下さい、保育園やお家での事を相談させてもらい助かっています。今後も宜しく願います。
- ・いつも楽しみに来ております。毎回楽しかった事や行った活動を教えてくれてありがとうございます。
- ・毎週子供が楽しそうに通っていて、親の私も嬉しいかぎりです。できる事や言葉もどんどん増えてきました。いつもありがとうございます。
- ・友人の紹介で通っておりますが、いつも楽しく通っています。保育園での様子も伝えて貰えるのでこちらに来て良かったです。
- ・いつも丁寧なご指導ありがとうございます。子供も毎週楽しみにしています。今後とも宜しく願います。
- ・日常の疑問・嫌な事・嬉しい事、何でも相談できています。専門的な説明から体験の共有をしてもらい勉強できるので助かっています。子供だけでなく、親の私にも必要な場所になっています。いつもありがとうございます。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ぼらりすあんど		2026年2月18日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	1	相談室を別室に配置し支援室を広く使用できるように努めている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		職員の配置が適切になるように日々調整管理を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	3	玄関には段差がありますが、必要に応じて職員が付き添い安全に配慮するなど、状況に応じた対応を行っている。設備面においても、それぞれの障害特性に応じて情報が伝わりやすいよう視覚的な提示を取り入れるなど、環境上の配慮に努めている。	個別対応中心となっているため、職員間での共有や統一をさらに図るようにする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	1	感染症予防のため、施設内・玩具・遊具の消毒をケースごとに行っている。活動によって、遊具や設備を移動して工夫している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	2	複数の療育室、相談室を必要に応じて使用できるようにしている。	グループ活動の際に複数の子どもがクールダウンするスペースが足りない可能性がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13		個々の支援目標や事業所全体の課題について定期的に共有することで、特定の職員だけでなく、広く職員が意見を出し合える体制を整えている。また、支援の経過や子どもの変化をもとに「目標は適切か」「支援方法は有効か」といった視点で話し合いを行い、必要に応じて目標や取組内容を見直すようにしている。日常的な情報共有の場をPDCAサイクルの“Check(評価)”と“Action(改善)”につなげることを意識し、継続的な改善に取り組んでいる。	日々の会議の中では時間的な制約もあり、振り返りが十分に深まらないことや発言する職員が固定化しやすいという課題がある。今後は、年間・半期ごとなど一定期間での体系的な振り返りの機会を設けることや書面やアンケート形式で意見を集めるなど、より多くの職員が参画しやすい仕組みづくりが必要である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		保護者向けアンケートを実施。結果を保護者へ返し、業務内容の改善に向けて職員間で検討している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	1	日々行う連絡会議やカンファレンス、年1回の職員への聞き取り等で確認し、職員会議の議題にして検討している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		13		運営については、第三者に意見を求めて業務改善につなげているが、外部評価という形をとっていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	2	内部研修の機会を確保している。外部研修やカンファレンスにも積極的に参加している。出席できない非常勤職員にも内容を伝達したり、個別に研修を行ったりしている。	時間的制約があり、十分とは言えない。日常の療育を通じて、実践的に学習し合う機会を設けることが必要である。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		支援プログラムを作成し、ホームページ上において公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11	2	活動における様子や保護者様からの聞き取り、発達検査の結果を反映して計画を立てている。職員会議でそれぞれの専門職からの意見、情報交換を行っている。また、保護者面接の時に子どもの家庭や園での様子を聞いて、計画に反映するようにしている。	客観性を重視する場合、園からの情報も集約して分析し、児童発達支援計画を作成する必要がある。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		職員会議で、子どもについての情報交換を行った上で、それぞれの専門職からの意見をもとに検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		支援計画に沿った利用ごとの目標を設定し、職員会議を通して共有している。また、その提供記録やカンファレンスを通して、達成目標の評価を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	2	契約時にアセスメントシートを用い、保護者様より情報を得ている。また、日々の保護者様との面接において、確認している。	新しい標準化されたツールを取り入れることを検討する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		ガイドラインの示す支援内容と保護者面接及び、利用者様の行動分析や特性ををもちに、利用者様に必要な支援目標を設定して、支援計画を具体的に説明するようにしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		個別活動では、それぞれの専門職の意見も踏まえながら内容を決めている。グループ活動では、事前の打ち合わせを行い、意見を出し合いながら内容を決めている。グループ活動後には振り返りも実施している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	2	利用者様の課題に応じて（家庭や園においての課題・将来の自立に向けた課題等）、その都度、設定している。個々に合った内容であるか、固定化していないか等を常に職員会議で話し合っている。	行動目標だけにすると固定化しやすくなるため、自己調整の発達段階、対人理解の発達段階、実行機能の成熟度といった発達のプロセスに基づく目標設定を行うことも検討する。また、支援を“減らすこと”に注目して、声かけを減らす、視覚支援を段階的に外す、成功体験を一般化させるといったフェードアウト設計をあらかじめ組み込むようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	13		家庭や集団（保育所等）で状況を保護者様や所属機関等から聞き取り、利用者様の課題に応じて、個別活動と集団活動に対応できるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	2	子ども一人ひとりの課題や目標を共有し、「本日の支援で特に意識する点は何か」「どのような関わりを大切にするか」といった具体的な視点をすり合わせたうえで支援に入るようにしている。	話し合いが経験や感覚に依存しすぎないように支援の根拠や目的をより明確にし、記録や振り返りを通して客観的に検討していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	2	責任者も交えながら情報を整理し、必要に応じて視点を補い合うことで、個々の見立てに偏らないよう心がけています。日々の打ち合わせに加え、適宜職員会議やカンファレンスを実施し、支援目標の妥当性や関わり方の方向性について検討する機会を設けている。	支援の評価が経験や感覚に依存しやすい側面もあるため、目標に対する達成度や子どもの変化を客観的に確認できる視点をより意識するようにする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		担当している子どもについて、職員間で助言を行い合いながら毎回、記録している。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		保護者様から状態や必要な支援について情報を得て、必要に応じて計画の見直しを行っている。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		要請がある時には児童発達支援管理責任者が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12	1	必要に応じて保健センターや子ども家庭支援課、通園（所）している園、医療機関等と連携して対応している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	1	入園・転園に際しての支援を行っている。必要に応じて、保護者の了承を得て、情報共有や引継ぎ会に参加して、相互理解を行っている。	インクルージョン推進していくためには、「場をつなぐこと（連携・移行）」だけではなく、「場そのものが受け入れられる構造へと変わること」まで踏み込んで考える必要がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		必要に応じて、就学における支援会議等に参加している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	13		必要に応じて、情報共有をしたり、助言を受けたりしている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		13		事業所内での個別支援を中心としている。グループ活動においては、利用者様同士の交流を基本としている。現在のところはそういった活動はしていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		定期的に保護者面接を行っている（月1～3回）。その際に家庭や園の様子、子どもの発達状況や課題を共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13		ペアレント・トレーニングや研修会としての場は設けていないが、定期的な保護者面接の中で、家庭での子どもへの関わり方や環境設定の方法、子どもへの伝え方等を提案したり、その後の振り返りを行う中で別方法の提案等を行っている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		運営規定等については、契約時に説明をしている。支援の内容や利用者負担等については、毎月、知らせしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		定期的に保護者面接を行っており（月1～3回）、その際に家庭や園の様子、子どもの発達状況や課題・意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13		その都度、説明や確認を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		定期的に保護者面接を行っている（月1～3回）。保護者から相談がある際には、その都度、面接や電話で対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		13	家族間の関係性もあるため（それぞれの家族によって認識も違うため）、開催、実施は行っていない。	参観などを通して、横のつながりが持てる機会を設定していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		その都度、迅速に対応している。保護者には、契約時に説明し、対応には児童発達支援管理責任者が担当することを周知している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13		必要に応じて、保護者向けのお知らせを掲示したり、公式LINEアカウントで配信したりする等、連絡事項の周知を図っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		記録類は施錠できるロッカーに保管している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		保護者様に子どもの行動の意味を伝えたり、子どもの発達状況を確認したりしながら、子どもの理解に繋がるように保護者面接を行っている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		13	現在はご利用様および保護者様の安心感を最優先とし、事業所内での安定した支援を重視しています。今後は当事者の意向を踏まえながら、無理のない形で地域とのつながりを検討している。		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		各マニュアルを策定し、周知している。様々な状況を想定しながら訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		BCPを策定し、様々な状況を想定しながら訓練を行っている。	利用頻度や支援形態により、全ての利用者様に訓練に参加して頂くことが難しい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13		契約時にアセスメントシートを用い、家族より情報を得ている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			食べ物の提供は行っていない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を定期的に行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	2	契約時に安全計画に基づく取り組みに関して説明している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		その都度、気になることは口頭、会議で共有し、事例集を作成している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		職員には研修を行い周知している。保護者には契約時に周知している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		契約時に説明している。		